

夢のつばさプロジェクト

2018年秋の交流会 学生報告書

【実施日】 2018年10月14日(日)

【開催地】 宮城県仙台市：西公園、仙台国際センター

【参加者】 子ども：23名（小学生9名、中学生8名、高校生6名）

学生ボランティア・OB/OG：24名、社会人ボランティア：5名

社会人スタッフ：2名、保護者：5名

◆2018秋の交流会について

夢のつばさプロジェクトの秋の交流会は今回で5回目の開催となりました。当日の朝まで天候が心配されていましたが、無事雨も降らずに過ごしやすい一日となり、外でのびのびと身体を動かすことができました。

今回は西公園にて、午前中に2つのレクリエーションゲーム、午後に「密告者」という企画を行いました。また企画を行っている間には、公園からほど近い仙台国際センターにて学生数名と社会人スタッフ、保護者の方による懇談会も行われました。以下に詳細をご報告いたします。

◆タイムスケジュール・詳細

時間	子どもたちの動き	保護者会の動き
10:20	子どもたち仙台駅集合	
10:35	仙台駅出発	
11:05	西公園到着	11:00～13:00
11:20	「隠れたペアを探し出せ！」開始 …①	保護者懇談会 …④
11:35	ジェスチャーゲーム開始 …②	
12:10	昼食	
13:00	「密告者」開始 …③	
14:45	自由時間	
15:40	西公園出発	
16:10	仙台駅到着	
16:20	解散	

①隠れたペアを探し出せ！

「隠れたペアを探し出せ！」は背中にあるものの名前が書かれた紙が貼られ、周りの人に質問をしながら何が書かれているのかを当てるゲームです。自分の背中に書かれているものが分かったら、同じものが書かれている人を探しペアになります。背中に書かれているものを当てるため、皆積極的に周りの人に話しかけていました。ペアになることができるのとハイタッチをして喜んだり、他のペアができるのを待ちながら会話を楽しんでいたりする光景が見られました。



②ジェスチャーゲーム

「隠れたペアを探し出せ！」でできたペアをもとにチームを作り、3チーム対抗で行いました。今回のジェスチャーゲームには、①ジェスチャーをするグループは全員でお題を表現すること、②ジェスチャーを当てるグループは大縄を跳んでから回答することという特別なルールがありました。そのため段々と難易度が上がるお題や大縄の連続跳びに少し苦労しながらも、声を掛け合いながらチーム全員で力を合わせて取り組んでいました。優勝チームにはご褒美として「昼食のお弁当選び優先権」が贈られ、お弁当選びも大いに盛り上がりました。

③密告者

「密告者」は3～4人1組のチームとなり、背中のゼッケンに書かれた4桁の数字を他のチームに見られないようにしながら様々なミッションをクリアしていくゲームです。午前のジェスチャーゲームと同様にチームでの協力が勝利の鍵となるゲームでしたが、ゼッケンを隠すために常に背中同士をくっつけて横歩きで移動したり、役割分担をしてミッションに挑んだりと各チームが作戦を立て、工夫しながらより高いポイントの獲得を目指していました。公園内に隠されたロープを探すという最終ミッションでは、一番難しい場所に隠されていたロープを発見したチームに大きな拍手が贈られました。1つの目標に向かって頑張るなかで、同じチームになったメンバーとの距離を縮めることができました。



④保護者懇談会

学生からはキャンプ中の子どもたちの様子をお伝えし、保護者の方々から普段の様子を伺いました。「〇〇は夢のつばさが大好きで」「帰ってからも写真やいただいたカードを見たりして楽しんでます」という言葉を何度かいただきました。これまで先輩方が培ってきた子どもたちへの配慮や努力を引き継いで一生懸命活動してきたことを、喜んでくださっていることがとても嬉しく、夢のつばさが子どもたちにとって安心できる、心の拠り所となれるような場所であり続けたいと改めて感じました。オンラインでの学習支援プロジェクト「夢のつばさスタディ@オンライン」についても説明を行い、参加されているお子さんの報告をお渡ししました。このプロジェクトは立ち上がったばかりのものですが、勉強に取り組む姿勢が見られるようで嬉しいです。

また今回は、公益財団法人「みちのく未来基金」の事務局の方が奨学金の紹介をするために懇談会に参加され、保護者の方々との間で熱心な質疑応答が行われました。子どもたちが進学を諦めることがないように基金を活用してほしいと、様々な機会をとらえて広報活動をされているそうです。「託された資金ですからその運用には責任があります。各人1回のみにも適用、入学直後に退学してしまった場合には返還の必要があるなど、それなりにきちんとしたルールで対処しています。」と話される姿勢にも考えさせられるものがありました。

◆秋の交流会を終えて

今回の秋の交流会は子どもたちと学生の距離をより縮め、これからのキャンプや交流会にもつながる関係性を築くという目標のもと企画いたしました。企画で同じチームになったメンバーで、昼食の時間や自由時間を一緒に過ごしている様子も見られ、子どもたちから「冬キャンプにも来たい!」との声を聞けたりしたことをとても嬉しく思いました。子どもたちと会うことのできる時間は、一年のうちのごく限られた時間ですが、その時間が充実したものになるよう、スタッフ一同引き続き力を合わせて参ります。

また保護者懇談会では「夢のつばさスタディ@オンライン」について、「助かっています」との声をいただきました。夢のつばさのメンバーには中高生が増え、最近のキャンプ・交流会では中高生の参加人数が小学生の参加人数を上回ることも珍しくなくなってきました。今後はより一層、子どもたちの成長に合わせて一人一人に寄り添った活動をしていきたいと考えております。

最後に、保護者の方々や社会人スタッフの皆様をはじめ、夢のつばさの活動を温かく見守り支援してくださっている皆様に、改めて感謝申し上げます。今後とも何卒よろしく願いいたします。

大学生ボランティア秋の交流会統括 お茶の水女子大学2年 野村佳乃子